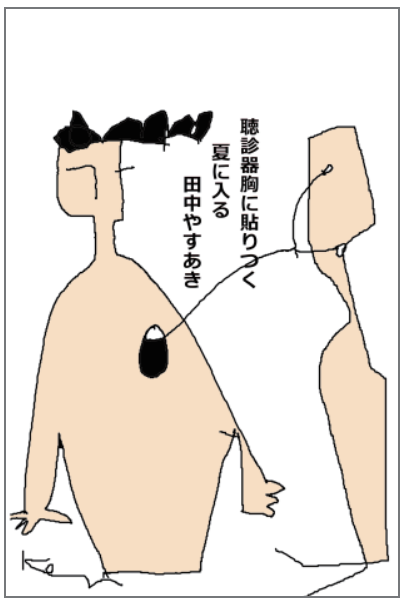
■今月の特選句

2025年6月

子も四十大人ばかりのこどもの日

桜井美千

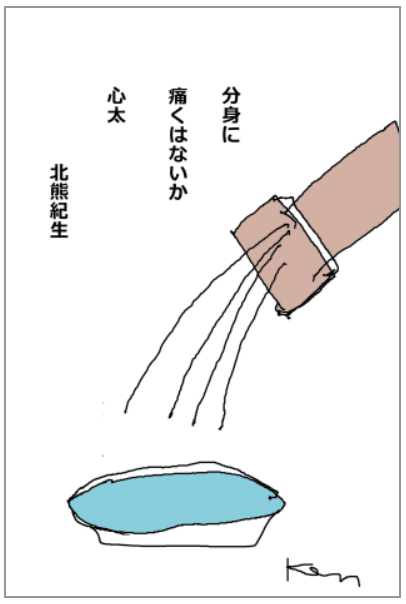
五月五日の「端午の節句」は男児限定だったが、戦後いち早くジェンダレス時代を予見してか「こどもの日」に。少子化で大人の日となる子どもの日。



聴診器の胸に貼りつく夏に入る

田中やすあき

春から夏になった季節の変わり目の微妙な変化を上手くとらえた。五感の中でも皮膚感覚でその実感を表現したところも新しい。季語も効果的。



分身に痛くはないか心太

北熊紀生

心太を擬人化した句はいろいろあるが、網目を通り抜ける痛みを心配する句は無かった。確かに可哀相だが、かたまりのままでは食べにくいなあ。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

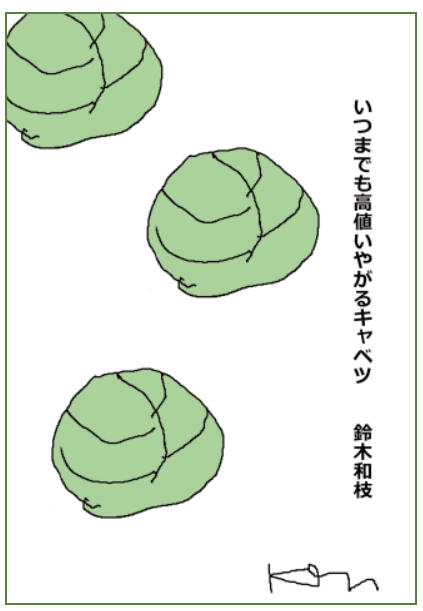
■今月の特選句

2025年6月

花びらを散らし普通の木にもどる

上山美穂

桜は春の季節の大スターである。花がある間は大勢の人から注目され、写真に撮られ、夜間は照明もあてられる。葉桜になりて日常取り戻す。



いつまでも高値いやがるキャベツ

鈴木和枝

価値が上がったと威張れるのに、値上げは嫌らしい。たとえブランド化されても庶民の味方でいたいのだ。「春みどり」歌手ではないよキャベツだよ。

春愁を刈り取つてくれ床屋さん

柳　紅生

不揃いに伸びた髪や髭を床屋さんで整えてもらうと気持ちもスッキリ。ついでに春愁も一緒に取ってもらおう。滑稽句出来て春愁何処へやら。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

逆走の馬に歓声草競馬　　**横山洋子**
・・・馬にも反抗したき時あり

飢うる子に文学無力芋を植う　　**上甲 彰**
・・・飽食の子に芋は無力で

困ります花の下にて死なれては　　**伊藤浩睦**
・・・うろたへてゐる西行法師

パンツとはズボンに非ず昭和の日　　**長井多可志**
・・・令和の時代ズボンはレトロ

海の日に我が島探す地球儀で　　**沖枇杷夫**
・・・世界の中の海洋大国

世知辛い世間話も吹き流し　　**長井知則**
・・・聞き流すのも世渡りの知恵

濁世に物申すべく蟾蜍(ひきがえる)　　**西野周次**
・・・両の手ついて威厳をたたへ

茎立や次男家去る由のあり　　**峰崎成規**
・・・独り立ちする時の来たりて

大人ぶるパセリむしゃむしゃ食べてみせ　　**加藤潤子**
・・・苦味は滋味と分かつてきたか

わたくしもレトロとなりて昭和の日　　**鈴鹿洋子**
・・・ヴィンテージてふ価値も加はり

名乗る名を持たぬ古墳を春の風　　**桑田愛子**
・・・美田遺さず古墳遺さう

田の水に腹を映して燕飛ぶ　　**梅野光子**
・・・水飲み水浴び自由自在よ

住宅事情ありて泳げぬ鯉のぼり　　**山下正純**
・・・四万十川で泳ぐさだめに

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

＊今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

着地した所に住みつき花咲かす	青木輝子
四月馬鹿育児書読んで鬱になり	青木輝子
更衣老いても多少ときめけり	青木輝子
賑はひの記憶は薄れ葉桜に	井口夏子
お仕置きしたい夏風邪のエヘン虫	井口夏子
まばたきの瞬間太り鯉のぼり	井口夏子
政治家の少子化論議梅雨の入り	池嶋久春
水無月や外で会う孫すまし顔	池嶋久春
植木市植木買うより家が先	池嶋久春
散ることは百も承知よ花は花	池田奈美子
葉の裏の白きが蓬祖母に聞く	池田奈美子
訪ね来よ白木蓮を目印に	池田奈美子
モデル見たかドレスも見たかファッションショー	池田亮二
先生も不登校ですかと五月病	池田亮二
花見酒帰路に検問あると聞く	伊藤浩睦
米高し花見弁当は出前ピザ	伊藤浩睦
同窓会の知らせにワクワク風薫る	稲葉純子
さくらんぼ弾けて君の唇に	稲葉純子
頼みもせぬに伸び若竹の心意気	稲葉純子
燕の旅に同行したき海の上	井野ひろみ
筍掘り婆の食欲衰えず	井野ひろみ
物忘れ認知症かも花は葉に	井野ひろみ
目の奥に渓流山女焼き上がる	上山美穂
草青む歯科医師牛の歯をのぞく	上山美穂
太陽の塔は腕白昭和の日	卯之町空
万博のミャクミャク可愛い初夏の海	卯之町空
ボッティチェリの女神の如き牡丹かな	卯之町空
四万十の空に五千の鯉のぼり	梅野光子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

ふるさと談義蚕豆を味はひつ	梅野光子
春宵の宴果てたる星の道	柄川武子
花だより神戸大阪南紀より	柄川武子
春うららひと日の散歩ふたりして	柄川武子
鬼太鼓地球の鼓動に違いない	遠藤真太郎
薬狩ワークオフの趣味超えて	遠藤真太郎
亀の子の池の柵越え知る自由	遠藤真太郎
四月尽冷房暖房繰り返し	大林和代
風を待つダンスの好きな小手毬よ	大林和代
聖五月けふの卵の茹で加減	大林和代
松山に秋山兄弟秋の山	沖枇杷夫
古ぼけた自転車多しリラの街	沖枇杷夫
キッチンに梅の香転げヘタを取る	加藤潤子
月下美人咲いたと思えばクジャクサボテン	加藤潤子
揚羽蝶孫が欲しいと強請られる	門屋 定
蜜を吸う鳥は来ないか落椿	門屋 定
松の花孤高とも見ゆ立姿	門屋 定
歌がるたパソコン使うて突き指し	北熊紀生
遅日なり呑んでる時間変わりなし	木村 浩
遅日なり朝寝の罪も軽くなる	木村 浩
松山の烏野豌豆笛にせよ	工藤泰子
駅うららアンパンマンの列車着く	工藤泰子
七星の勲章背負ふ天道虫	工藤泰子
キャッチボールに怒声の混じり夏めけり	黒田恵美子
ノコノコと亀の目覚める夏初め	黒田恵美子
花は葉にカラスそろそろ子育てに	黒田恵美子
軍隊蟻躑躅の花道行軍す	桑田愛子
ザラメザラザラバラストに薄暑光	桑田愛子
どの子にも尾を振つてみせ鯉のぼり	桜井美千
たんぽぽの絮に自由や風まかせ	桜井美千
紅灯の桜も散りておさらばえ	敷島鐵嶺
このごろの苺は甘くなり過ぎる	敷島鐵嶺
万博で聞く津軽弁修司の忌	敷島鐵嶺

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

鮎のぼる株価流れる掲示板	上甲 彰
干いかの臭いをつれて風来たる	上甲 彰
子の本音親の建て前春の鬱	白井道義
銅像の頭の天辺に燕来る	白井道義
父音痴母も音痴やこいのぼり	白井道義
長男に生まれしさだめ鯉のぼり	鈴鹿洋子
丸焦げの山を映せし水田かな	鈴鹿洋子
サクラ観て来た心臓と寝る	鈴木和枝
ワクチンが良く効いているサクラサクラ	鈴木和枝
まだ売れぬ顔のきびしき武者人形	髙田敏男
風神の思うままなり五月鯉	髙田敏男
微笑むは千手観音去る百足虫	髙田敏男
春愁の値札米価の高止り	田代輔八
鷹鳩と化してチワワと鬼ごつこ	田代輔八
ハモニカと徘徊の鳩花の酔	田代輔八
要件に呼びつけられる目借時	田中 勇
春の宵飛田新地を闊歩せり	田中 勇
散る桜国難数多待ち受ける	田中 勇
蚕豆の下向くことは許されず	田中やすあき
師の家はキャベツ畑の隣りなり	田中やすあき
春らしさ行きつ戻りつ今日になる	谷本 宴
てらてらの若葉に映る笑顔かな	谷本 宴
雨蛙お腹なでなでねんねんよ	谷本 宴
みどりの日翔ける君の背追う声援	千守英徳
走るわが背中を押すは麦秋の風	千守英徳
更衣今年も誓うダイエット	千守英徳
金券の期限に慌て三月尽	月城花風
恋猫の素通りしてる視力表	月城花風
ロザリオをすり抜け首へ藪蚊刺す	月城花風
鬘(かつら)飛ぶ時代劇ロケ風光る	土屋泰山
祝日も引っ越しするかみどりの日	土屋泰山
叩かれて息かけられて紙風船	土屋泰山

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

飛ぶ燕ぶつかりさうに朝の道	百目鬼強
退院や巌窟王めく髪洗ひ	百目鬼強
ラムセスの木乃伊もいびき昼寝かな	百目鬼強
花冷と整形外科の医者が言ふ	尚山和桜
白梅と言へぬ紅梅とも言へぬ	尚山和桜
電車がたと動きて四月始まる	尚山和桜
凛としてロング・ミニ・ミディ街薄暑	長井多可志
辛党と気付いてからの木の芽和え	長井多可志
手紙きて心もまるごと更衣	長井知則
凛として歳重ねても白重ね	長井知則
春炬燵浮世のことをぺちゃくちゃと	永井流運
田水張り能登半島は生き返る	永井流運
メーデーの相手は家の中にいる	永井流運
明易やこむら返りで目の覚めて	長尾七馬
青嵐着ているものを剥がさむと	長尾七馬
夕餉までつまむものなし春の昼	長尾七馬
千枚田水満満と夏の月	西野周次
若葉風十指跳ねあげ弾くボレロ	西野周次
メタボの訳のあるようでない鯉のぼり	花岡直樹
麦秋やバックの山も爆笑し	花岡直樹
クラフトと地ビール競う春の暮	花岡直樹
揚げひばり雲を摑みに行つたきり	久松久子
リーダーの居るかに並ぶ初つばめ	久松久子
故郷のぺよぺよ言葉山わらふ	久松久子
手に包む湯呑新茶のたつぷりの	日根野聖子
夏めけばコーヒーゼリー買ふことに	日根野聖子
どの薔薇も輝かせむと五月来る	日根野聖子
夕立に遭う度毎に傘を買い	細川岩男
ほっと一息緑蔭に風走る	細川岩男
入梅と聞いてうんざり顔となり	細川岩男

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

草団子好きな彼女を好きになり	ほりもとちか
学校をサボり雲雀の巣を探す	ほりもとちか
初花やわたしは二番目に咲くよ	ほりもとちか
桜餅寡婦ばかり寄る昼下がり	松浦百重
一枚のちらし熟読春の昼	松浦百重
車窓より富士を見逃し眠き春	松浦百重
野球児もキラキラネーム春の空	三木雅子
揺り椅子にひとり揺られて春の昼	三木雅子
九官鳥ものまねうましあたたかし	三木雅子
花筵小さくのべて二人かな	水本明日香
一枚は手のひらほどや春子焼く	水本明日香
富士山の見える席なり春の旅	水本明日香
鋭角に跳ねて狭庭の五月の陽	南とんぼ
南極が小さくなったと初燕	南とんぼ
山笑う富士も浅間も装いて	南とんぼ
菖蒲湯に抜けたる邪気は百グラム	峰崎成規
逆風を食むが身上鯉幟	峰崎成規
指紋認証かと思ふ鬼浅蜊	椋本望生
はつ夏のラジオ体操ンぽぽンン	椋本望生
すつぽんで終はるしりとり朧の夜	椋本望生
筍に戻れぬ高さ風静か	村越 縁
契約の更新通知と燕来る	村越 縁
渋滞と無縁農道の田植え機は	村越 縁
値上がりの米姿消す五月かな	村松道夫
春の雨合羽をまとふ犬散歩	村松道夫
親と子の距離を縮める石鹸玉	村松道夫
へその緒の仲間とも見え麦のひげ	森岡香代子
薔薇の知恵下を向きつつ雨しのぐ	森岡香代子
蕗の葉の大屋根支える筋は鉄骨	森岡香代子
正しくは中高（なかだか）わかめのアクセント	八木 健
過剰防衛筍の毛むくじやら	八木 健
青竹の齢は十八前後かと	八木 健

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

ゴールデンウィーク初日の二日酔い	八塚一青
小満の日にカステラを厚く切る	八塚一青
カチカチのソフトクリームいとおかし	八塚一青
上を向き過ぎて躓くサングラス	柳 紅生
おむすびは心の絆山登り	柳 紅生
朝夕の鴬の音の耳福かな	柳村光寛
春疾風右顧左眄する日本丸	柳村光寛
陽炎やピント合わせを諦める	柳村光寛
春の人散歩させたるワンコかな	山岡純子
ウォーキング身体も心も五月晴	山岡純子
子雀に笑われている寝ぼけ顔	山岡純子
宇和島の伊達家由来の上り藤	山下正純
画数も花も数多の躑躅かな	山下正純
きらきらの海に泳いでいる鰹	横山洋子
少子化か一羽で待つや燕の子	横山洋子
赤いバラ散るのは早いちよつと待て	吉川正紀子
やんちやもの勢揃ひなり葱坊主	吉川正紀子
山々を逆さに映し五月のダム	吉川正紀子
新茶の香母は薄目を開けたまふ	渡部美香
この胸のやつれがばれる薄暑かな	渡部美香
お喋りの突然やみてもう昼寝	渡部美香
山城の威風堂々老桜	和田のり子
チャップリンデー踊りたくなる四月かな	和田のり子
菜の花の幻の波泳ぐ夢	和田のり子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。